

## 今年は今組合員が主体的に関わる年に！

COWHED 組合長メルチ・ウヤサン HANDS の皆様、新年おめでとうございます。

遅い挨拶ですみません。楽しいはずのクリスマス休暇中に、サンタクルスミッション時代の同僚マルリンの急死という悲しい出来事がありました。

また、当組合マネージャー・ジェマの給与補填の送金ありがとうございました。COWHED は 12 月 27 日に今年度最後の理事会を開催し、災害など緊急時に組合員が滞在できるシェルターを建てる計画が審議されました。COWHED 次期役員は 3 月総会で決定します。ハンディクラフト生産者も主体的に運営に参加できる体制を目指して役員選出をします。(1/12 付メール)

\* \* \* \*

ゼネラルサントスは雨や肌寒い日が続いていて風邪がはやっています。次女がダバオの病院に入院しました。COWHED は、前組合長のネニータが理事とともに 3 月総会に向けて組合員の参加度を高める研修など事業計画や予算案を準備しています。伝統の家の水道など水回りの施設支援も得られそうです。(1/17 付メール) 文責・山崎

### レイクセブ、サンタクルスミッション、COWHED

元サンタクルスミッション(SCM)スタッフの悲報は PFP ロニーさんから連絡がありました。このように、先住民族に関わる現地 NGO のいくつかには、メルチさん、ロニーさんと同じく、約 50 年前にレックス神父がチボリ民族の町レイクセブで設立した SCM で働いていた教師、農業、医療スタッフが働いています。



日本では故藤原先生が 1979 年に山口県でチボリ民族支援の里親の会 (JOFPA) を設立しました。

先生はその後 JOFPA を離れて FOT を設立しましたが、JOFPA は今も SCM の学校を支援しています。COWHED の組合員の多くも SCM の学校で学び、HANDS のあしなが奨学生も SCM 大学地域開発科で学ぶなど、先住民族に関わる組織はそれぞれ関係があります。

(写真:あしなが奨学生 SCMSI カレッジ 2 年のルナ。ブラクールで 12/22 撮影)

## CSR 推進 NGO ネットワーク活動報告

昨年 4 月に 23 団体が集まって発足したこのネットワーク。2 ヶ月に 1 回の学習会を重ね、CSR=企業の社会的責任について学んできました。ネットワークの目的は、企業が NGO と連携して、国連の掲げるミレニアム開発目標を達成するよう働きかけていくことです。

12 月にはそれまでの調査内容を発表するシンポジウムが開催されました(12 月 19 日、国立オリンピック記念青少年総合センター)。当日は HANDS から 3 名が出席しました。

基調講演として、国際 NGO のオックスファム・インターナショナル代表ホップズ氏から英国、EU の連携事例のお話があり、日本との違いを感じさせられました。また、現在日本の NGO と企業が行っている協働事例 4 例(①三菱ケミカルと日本フォスタープラン協会②フェリシモとシェア=国際保健協力市民の会③花王とアースウォッチ・ジャパン④ソフトバンクモバイルとジャパン・プラットフォーム)は、今後の HANDS の活動に示唆を与えてくれました。

P6 にありますように、来年度 HANDS は事務所を移し、体制をしっかりと整えていきたいと考えています。また、運営面ではこれまで様々な研修や学習会で学んできたことを生かして参りたいと思います。会員、市民の皆様からのご意見、ご指導をよろしくお願いいたします。

### イベント報告

アジア保健研修所(愛知県)の招待で来日した PIHS のナプサさん。ミンダナオ・バシラン州のナグディアラブ財団事務局長のデデットさんとともに、ミンダナオの現状についてお話いただきました(12 月 8 日、明治大学)。

ナプサさん帰国後に避難所への支援要請が届いたように、ミンダナオの情勢は予断を許せません。情報交換を続けていきたいと思っています。



写真右から、ナプサさん、アジア保健研修所中島さん、九島